

平成 30 年度 長野県総合教育センター評議員会

1 期日・会場 平成 30 年 10 月 2 日(火) 第 6・7 研修室ほか

2 日 程

- (1) 研修講座・生徒実習の視察見学
- (2) 評議員会 [第 6・7 研修室]

開 会

① 座長選出

② 説明・報告

ア 平成 30 年度長野県総合教育センター 組織・機構 事業の重点

イ 研修事業

- ・長野県教員育成指標に基づいた研修
- ・今年度の注目講座
- ・平成 29～30 年度 研修講座実施状
- ・研修講座のふりかえり(受講者アンケート)集計結果
- ・指定研修の概要
- ・生徒実習事業及び先端技術研修の概要

ウ 学校支援事業

- ・教職員研修会サポート及び学校訪問支援

エ 研究調査事業

- ・チーム課題研究、センター研究発表会

オ 教育情報事業

- ・ホームページのコンテンツ (学びの広場)
- ・長野県視聴覚ライブラリー

カ 教育相談事業

- ・教育相談の概要

③ 評 議

- ・長野県総合教育センターの事業について
- ・長野県総合教育センターに期待すること
- ・その他

閉 会

3 出席評議員 (敬称略)

塩野入 幸隆	長野県中学校校長会 会長
杉村 修一	長野県高等学校長会 副会長
勝又 和彦	長野県特別支援学校校長会 中信地区代表
古畑 俊明	長野県 P T A 連合会 副会長
竹内 公人	長野県高等学校 P T A 連合会 副会長
坂口 昌夫	長野県市町村教育委員会連絡協議会 会長
北澤 智彦	塩尻市中央公民館 館長
高山 雪	松本大学教育学部教職支援センター 講師

平成 30 年度長野県総合教育センター評議員会 評議要旨

(平成 30 年 10 月 2 日実施)

次のような点について、ご質問やご意見をいただきました。
今後の事業運営および研修講座づくりに反映させて参ります。

○大学連携について

- ・本年度、松本大学教育学部との連携講座でドラムサークルの講座を設定した。松本大学には他にもユニークな研究を積んできた先生方がたくさんおり、松本・中信地区を中心にしながら研究したことを広めていきたいという気持ちが強くある。本年度は音楽で連携をさせていただいたが、他の教科でも是非連携を更に進めていただきたい。また教育学部の学生が、現場の先生方と一緒に研修を受けるといい勉強になった。後輩を育てるという意味でも、大学生と一緒に学ばせていただく場をぜひお願いしたい。

○研修講座の内容・あり方等について

- ・義務では講師の比率が高く、地域によっては講師によって学校全体が支えられている。正規の初任者には研修が手厚くある一方、同じように担任を持っている講師については指導力向上を果たすような研修の機会が少ない。受講者の中で講師の方の比率はどの程度か。また、若い先生や、教員採用試験にまだ合格していない講師の方々の学びの場を作っていただきたい。それが現在担任として奮闘している講師の先生方にとって大事なことはないか。
→センターとしては希望研修として、各分野の研修講座の中で講師を受け入れている旨、回答。
平成 30 年度受講決定者 5,050 名中、講師は 703 名（人数は受講日数に基づく延べ数）。

- ・高校の講師の先生の講座はありがたかった。前々から課題になっていたところであった。センターの専門主事の先生方には学校に来て見ていただいたり、総合発表を聞いていただいたり、評価していただいたりしてありがたかった。宿泊研修の時にも非常にいいアドバイスをいただいた。帰ってきた生徒の表情が非常に良かった。
- ・初任研等、帰ってきた先生が報告に来た時、非常によく語れる。語れるということは身になっていることだと思うので、アウトプットも含めていい研修ができているのだと思う。
- ・高校で一番悩んでいるのが教科横断型。教科横断型を作ろうという講座でも、過去の実践例でも、いろいろな教科の先生と組んで、「こんなことはできないか」ということを考える機会ができると、学びに大きな変化が出てくるのではないか。

○ICT機器の活用について

- ・今まで高校では講義的な授業が多かったが、電子黒板が導入され活用することによって仲間と話し合っ、いろいろな意見が出されるという展開が生まれてきた。電子黒板の活用によってこれだけ変わるのだなと感じた。今、一生懸命各教科では教材を作っている。電子黒板のデータを共有できないかと考えている。また、試験内容も変わってきている。試験内容に関しても、こういう問い方、このような答え方といったものを、共有できるとよい。電子黒板、試験のデータの共有化を図ってほしい。
- ・ICT関連も進んでいるということであるが、今教育現場に ICT 機器が導入されている時期なので、コンテンツをより標準化して先生たちが ICT を皆が使えるようなものを作ってほしい。

○事業全般について

- ・現在 ICT、英語・道徳の教科化さらにプログラミングなど、「研修、研修」で先生方が逆に追い詰められているという一面もあるかもしれないが、一緒に健やかな子どもたちを育てる、自分たちも成長していくという点では、研修というものは絶対に必要である。更なる先生方の学びを支えることが子どもたちに還っていくと思う。センターとしても更なる研修の充実を図ってほしい。先生方が充実して学校に戻って、それが学校に広まる。そんな研修を今後とも整備して欲しい。